# 

# 鋼製管フランジ

## JIS B 2220 : 2012

(JPFA/JSA)

平成 24 年 2 月 20 日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本工業標準調査会標準部会 機械要素技術専門委員会 構成表

		氏	名		所属
(委員会長)	高	増		潔	東京大学
(委員)	相	羽	繁	生	株式会社東郷製作所(社団法人日本ばね工業会)
	石	丸	暬	$\pm$	公益社団法人自動車技術会
	巿	Л	直	樹	独立行政法人産業技術総合研究所
	大	橋	宣	俊	日本ねじ研究協会
	遠	山	史	雄	社団法人日本ベアリング工業会
	高	辻	利	之	独立行政法人産業技術総合研究所(東京電機大学)
	田	渕	宏	政	社団法人日本バルブ工業会
	堀			功	日本工具工業会
	椙	尾	茂	樹	大阪機工株式会社(社団法人日本工作機械工業会)

主 務 大 臣:経済産業大臣 制定:昭和 59.10.1 改正:平成 24.2.20

官 報 公 示:平成 24.2.20

原 案 作 成 者:日本金属継手協会

(〒104-0031 東京都中央区京橋 3-14-6 斎藤ビル TEL 03-3564-2035) 財団法人日本規格協会

(〒107-8440 東京都港区赤坂 4-1-24 TEL 03-5770-1571)

審 議 部 会:日本工業標準調查会 標準部会(部会長 稲葉 敦)

審議專門委員会:機械要素技術專門委員会(委員会長 高增 潔)

この規格についての意見又は質問は,上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 基準認証ユニット産業基盤標準 化推進室(〒100-8901 東京都千代田区霞が関1-3-1)にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査 会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。 目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	2
4 フランジの種類及びその呼び方	2
5 ガスケット座の種類及びその呼び方	2
6 亜鉛めっきの呼び方	
7 性能	
7.1 機械的性質	
7.2 健全性	
8 材料	5
9 流体の温度と最高使用圧力との関係	6
10 フランジの呼び径及び圧力-温度基準の適用	6
11 フランジとガスケット座との組合せ	6
12 寸法	7
12.1 ガスケット座の寸法	7
12.2 フランジの寸法	7
12.3 一体フランジ (IT)	7
12.4 ねじ	7
12.5 寸法許容差	7
13 外観	7
14 表面仕上げ	
14.1 ガスケット座	
14.2 溶接部	
14.3 溶融亜鉛めっきを施した面	
15 亜鉛めっき	
16 製造方法	
16.1 フランジー	
16.2 亜鉛めっき	
17 試験方法	9
17.1 浸透探傷試験	9
17.2 磁粉探傷試験	9
17.3 超音波探傷試験	9
17.4 硫酸銅試験	9
17.5 材料試験	9

	ページ
18 検査	
18.1 寸法検査	9
18.2 外観検査	
18.3 表面仕上げ検	·查 ······10
18.4 浸透探傷検査	
18.5 磁粉探傷検査	
18.6 超音波探傷検	查
18.7 溶融亜鉛めっ	き検査
18.8 材料検査	
18.9 受渡検査	
19 製品の呼び方…	
20 表示	
21 使用上の注意…	
21.1 全面形ガスケ	ットの使用 ····································
21.2 JIS B 1180 の	本体による六角ボルト及び JIS B 1181 の本体による六角ナット
附属書 A(規定)フ	ワラッシュ溶接によって製造するフランジ
附属書 B(参考)鋼	<b>1管の外径</b>
附属書 C(参考)小	√平面座
附属書 D(参考)溶	接式フランジの溶接部詳細
附属書 E(参考)呼	<sup>2</sup> び圧力 2K のフランジ······48
附属書 F(参考)フ	' <b>ランジの計算質量</b> 49
附属書 G(参考)参	┊考文献
解 説	

## まえがき

この規格は、工業標準化法第14条によって準用する第12条第1項の規定に基づき、日本金属継手協会 (JPFA)及び財団法人日本規格協会(JSA)から、工業標準原案を具して日本工業規格を改正すべきとの 申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が改正した日本工業規格である。

これによって, JIS B 2220:2004 は改正され,この規格に置き換えられた。

なお,平成 25 年 2 月 19 日までの間は,工業標準化法第 19 条第 1 項等の関係条項の規定に基づく JIS マ ーク表示認証において, JIS B 2220:2004 によることができる。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が,特許権,出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意 を喚起する。経済産業大臣及び日本工業標準調査会は,このような特許権,出願公開後の特許出願及び実 用新案権に関わる確認について,責任はもたない。

白 紙

日本工業規格

JIS B 2220 : 2012

## 鋼製管フランジ

## Steel pipe flanges

序文

この規格は,1984年に制定され,その後6回の改正を経て今日に至っている。前回の改正は2004年に 行われたが,その後の関連する規格の改正及び拡大した製品範囲に対応するために改正した。

なお、対応国際規格は現時点で制定されていない。

#### 1 適用範囲

この規格は, 蒸気, 空気, ガス, 水, 油などの一般配管<sup>1)</sup>, 圧力配管<sup>2)</sup>, 高圧配管<sup>3)</sup>, 高温配管<sup>4)</sup>, 合金 鋼配管<sup>5)</sup> 及びステンレス配管<sup>6)</sup> に使用する鋼管, バルブなどの配管部品を接合する呼び圧力 5K, 10K, 10K 薄形, 16K, 20K, 30K, 40K 及び 63K の呼び径 10A から 1500A までの鋼製管フランジ(以下, フランジ という。)について規定する。

この規格は,配管部品と一体にその一部を構成するフランジ(以下,一体フランジという。)についても 適用する。

注記1 JIS 鋼管の外径を, 附属書 B に示す。

注記2 この規格で用いる圧力は、ゲージ圧である。

- **注**<sup>1)</sup> JIS G 3452 による配管用炭素鋼鋼管及び JIS G 3457 による配管用アーク溶接炭素鋼鋼管を用い た配管。
  - <sup>2)</sup> JIS G 3454 による圧力配管用炭素鋼鋼管を用いた配管。
  - <sup>3)</sup> JIS G 3455 による高圧配管用炭素鋼鋼管を用いた配管。
  - 4) JIS G 3456 による高温配管用炭素鋼鋼管を用いた配管。
  - <sup>5)</sup> JIS G 3458 による配管用合金鋼鋼管を用いた配管。
  - <sup>6)</sup> JIS G 3459 による配管用ステンレス鋼管及び JIS G 3468 による配管用溶接大径ステンレス鋼鋼 管を用いた配管。

### 2 引用規格

次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの 引用規格は、その最新版(追補を含む。)を適用する。

- JIS B 0151 鉄鋼製管継手用語
- JIS B 0203 管用テーパねじ
- JIS B 0601 製品の幾何特性仕様 (GPS) 表面性状:輪郭曲線方式 用語,定義及び表面性状パラメ ータ
- JIS B 0621 幾何偏差の定義及び表示